



県内では令和2年7月26日夜から降り出した雨が27日午後以降も降り続き、28日6時8分に大雨(土砂災害)警報が発表され非常に激しい降雨となった。最上川では、町内の下野観測所で17.55メートルの最高水位を観測し、昭和42年羽越豪雨災害時に観測された15.94メートルを更新、甚大な被害をもたらした。

本町においては、土砂災害や内水の氾濫による浸水被害が想定されたため、28日12時48分に町内全域に避難勧告、19時40分に町内全域に避難指示を発令する事態となり、町内外13か所の避難所に1,081人が避難を余儀なくされた。水防団(消防団)延べ321人の出動による避難誘導や広報活動、排水作業等により、また町民各位の賢明な判断と行動により人的な被害はなかったものの、住家では、12地区において140戸が浸水の被害を受けた。また、谷地工業団地を中心に事業所が浸水被害を受け企業活動が停止するに至った。農地については大規模な冠水が発生し、農作物や農業生産施設に大きな被害を受けた。町内のインフラについても大きな被害を受け、町道、農道及び林道が土砂崩落や道路自体の崩落により通行不能になったほか、多くの農業施設についても機能不全となった。



令和2年7月豪雨が、 河北町に残した痕跡。



7月29日(火)最上川出水状況(河北町) : 写真提供『山形河川国道事務所』

■西里地区



■谷地西部地区



■ 溝延地区



■ 田井地区



■杉の下地区



■ 押切地区



(7/29)古佐川の氾濫 (ひなの橋)



(7/29)冠水した道路 (奥が河北橋)



(7/30)水に浸った鳥居とさくらんぼハウス



(7/30) 崩落した道路



(7/30) 片付け作業で混み合う道路



(7/30) 地区内へ大量の土砂や流木が残された

■ 谷地地区



(7/29) かすみ町：住宅地道路冠水(右側が逆川)



(7/29) 渋川排水機場排水作業



(7/29) 増水した最上川 (奥が東根市)

■北谷地地区





(7/30) 押切：道路の土砂撤去作業

河北町消防団 団長 古関 正彦

28日、早朝から最上川の水位を数回確認していたところ、午前10時ごろ連絡が入り役場に待機しました。その後最上川水位が、消防団待機水位になり本部付集合、分団長には、巡回・情報収集を指示しました。町災害対策本部会議終了後に連絡が入り、団の広報車が両所山麓道路にて土砂崩れと道路崩落に挟まれたとの報告。後に地元の人々の重機により救助されるという事態も発生しました。

その後も、団幹部、消防団車両と無線、携帯電話で情報収集を行い、団本部は、対応状況を町本部へ連絡し続けました。町本部より避難指示が発令されると、消防団車両による広報や昼夜の情報収集を行った他、夜中は交通整理、翌日はポンプでの排水作業を夕方まで行いました。被災された方々は大変でしたが、人的被害がなかったのは不幸中の幸いでした。

消防団としてもこの災害を教訓に、無線だけの情報収集ではなく、携帯電話の無料通話アプリも活用し、情報が目で分かるように、また町と消防団で共有できるようにしました。

今後は、消防団として、色々な災害に対応できるよう訓練や装備の充実を図って参ります。最後に、被災なされた方々にはお見舞い申し上げます。消防団員の方々は大変ご苦労様でした。今後とも町民を守り、家族を守り、最後には自分を守ってください。